

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 平成28年9月度 番組審議会概要

平成28年9月8日（木）

14時00分～15時15分

テレビ静岡本社 3階会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 齋藤 照安 花森 崇行 五十住和樹（1名欠席）

— 議 題 —

番組名 連続ドラマ「大人の土ドラ ノンママ白書」
フジテレビ系全国28局ネット番組（東海テレビ制作）

放送日時 平成28年8月13日（土）：第1話、22日（土）：第2話
23時40分～24時35分

制作著作 東海テレビ放送

— 番組内容 —

これまでいわゆる“昼帯ドラマ”を50年に渡り制作してきた東海テレビが、55分週一回の連続ドラマにトライし始めた放送枠で、番組では、子供を作らないことを選択し男社会で働いてきたものの、少子化が進み「働く母親」を奨励する社会環境に変化した今、部下との世代間のギャップや上司の圧力に苦悩しながらも、真摯に生きてゆくアラフィフ女性の姿を描いている。主演は鈴木保奈美。

— 審議概要 —

- ◎女性の生き方について問題提起する重たいテーマをよく取り上げてくれた。
- ◎現代社会の現象を知らしめ、理解してもらうためのよいドラマだと思う。
- ◎ノンママ・ワーママそれぞれ女性の立場がわかり、単純な構成で楽しみながら様々なことを知ることができた。
- ◎男性社会の中で奮闘する女性の苦労や葛藤をうまく描けている。
- ◎男女雇用機会均等法から30年が経過しても、男尊女卑の問題が依然として根強く残っている現状を浮き彫りにしている。
- ◎ノンママの悲哀が、シリアスにもコミカルにもうまく描けている。
- ◎世間一般からしても、“女の敵は女”という構図がリアルで興味深かった。
- ◎パワハラストレスの行為や、部下のウソなどが取り上げられ、実際の管理職としては、現実的に怖く感じる演技だ。
- ◎主人公と同世代なので感じるが、演技上の赤裸々な会話はとても現実に近い。
- ◎最終回迄どう展開するか興味があるが、主人公が救われる結末であって欲しい。
- ◎このままではノンママもワーママも救われない、スカッとする部分が欲しい。
- ◎一部の女優について、ノンママとは思えない演技で違和感を持った。
- ◎大げさな効果音が不自然に感じる。
- ◎一話目が暑い時期で二話目はすぐ秋になってしまい、ドラマに季節感がない。
- ◎酒場でノンママ3人が語り合うシーンが多用される演出について、“酒を飲みながらくつろいで観られる雰囲気が良い”、“パターン化してやり取りが長く、疲れてしまう”と、賛否両論が出された。
- ◎関連キーワードの解説を行う演出について、“興味深く観ることができた”、“ドラマにのめり込めないのだからいけない”と賛否両論が出された。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りで参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は平成28年10月13日（木）の予定です。